

家庭訪問のすすめ

1. 心構え

- ◇生徒自身の状況を把握し、気持ちを受け止めることが大切です。
- ◇その日の家庭訪問で、全てを解決しようとは考えないようにしましょう。
- ◇登校できない理由に固執するのではなく、信頼関係づくりを優先させましょう。

2. 事前準備

- ◆校内（職員間）での家庭訪問の目的の確認
- ◆家庭（保護者）への連絡…日時、訪問者など

3. 「登校刺激を行うとき」「控えるとき」の見極め

- ☆ケース会議を開き、生徒の状況を多面的に把握することが大切です。
- ☆生徒の状況によって支援がかわってきますが、以下を目安にしてみましょう。

登校刺激を行うことができるケース	登校刺激を控えるケース
<ul style="list-style-type: none">・不登校の初期段階・不登校の回復期・怠学・非行傾向のケース・無気力傾向のケース・家庭内に課題があるケース	<ul style="list-style-type: none">・刺激により、「体調を崩す」「表情が暗くなる」などの症状があらわれるとき・刺激後に、保護者への反抗や暴力が見られたとき

4. 保護者との連携が取れない場合の支援

- ★ケース会議を行い、関わっていく職員（SC，SSWを含む）や関わり方を検討しなおす必要があります。
- ★生徒の安否確認をしなければならないことを保護者に伝え、何らかの形で定期的確認をすることを共通理解しておきましょう。
- ★家庭内でつながりをもてる存在を探してみましょう。
（例えば、祖父母や親せき、兄弟姉妹などでもいいかもしれません）
- ★小中連携ができそうな場合は、小中間で相談をし、保護者にとって信頼できる存在と一っしょに家庭訪問をすることも考えられます。
- ★家庭訪問を拒む家庭については、保護者または生徒とメール等でのやり取りをすることも効果があるようです。

